

# 会 議 録

## 1 会議名

令和6年度 第2回和田区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的審議事項について（公開）

## 3 開催日時

令和6年6月19日（水） 午後6時30分から午後7時40分まで

## 4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：秋山美枝子（会長）、横田朋巳（副会長）、阿部和子、泉 幸雄、近藤 浩、  
近藤美絵子、角谷紀栄子、高橋武弘、西片正夫、西田良子、牧田 恵、  
山岸幸三、渡邊正昭

（欠席1人）

- ・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長、萬羽主任

## 8 発言の内容

### 【石黒係長】

- ・齊藤委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

### 【秋山会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：泉委員に依頼

— 次第2 協議事項（1）自主的審議事項について —

【秋山会長】

次第2 協議事項（1）自主的審議事項についてに入る。

第5期の地域協議会の活動開始にあたり、今後の活動の進め方を皆さんと考えた。4年間の任期をかけて一つの課題に取り組むか、あるいは、1年程度を単位とするか、いろいろな進め方がある中で、ある程度の見通しを持ちながら活動していきたいと思う。

今日はその議論の入る前に、参考として第4期の和田区地域協議会ではどのような話し合いをしてきたか、また、他の区ではどのような状況だったかを事務局から説明願う。

【石黒係長】

・【参考】令和6年2月21日資料No.1別紙1抜粋により説明

第4期地域協議会での自主的審議は、地域課題は何かを掘り下げるところから始まった。委員の皆さんからは、上越妙高駅周辺の整備・将来的な展望・周辺地域の活性化・観光振興のほか、公立保育園の老朽化、高齢者の見守り支援、避難路の安全確保、地域の防犯対策、通学路・歩道などの危険箇所、道路の街路樹の管理、世代間交流、町内会の横の繋がり強化、地域コミュニティの醸成などの意見があった。それらについて、課題解決の実現性や取り組みやすさなどの観点からテーマを絞り、最終的に上越妙高駅周辺の整備・活性化を自主的審議事項とすることに決定したのが令和3年3月になる。

駅周辺の整備・活性化と一言で言っても、多様なアプローチが考えられる中で、まずは各委員が考える活性化の考えを整理し、次の4つの区分で検討を進めることとした。

一つ目、体育施設や市の機関の整備といった公共施設の整備による活性化

二つ目、飲食店や商店、デパート、スーパーなど企業の誘致、専門学校の誘致などの民間企業、店舗などの進出による活性化

三つ目、幹線道路の整備や駅を拠点とした公共交通の整備などの道路、交通の整

備による活性化

四つ目、花の植栽など環境整備による賑わいの創出による活性化

それぞれの区分について、状況を把握するため市の各担当課から説明を受けた。公共施設の整備、企業誘致、道路・交通整備については、市交通政策課から説明を受け、駅周辺の土地区画整理事業は平成30年度末に完了しており、区域内の9割近くの土地について利用または検討がなされたこと、また、不動産業者と土地所有者が直接、話ができるということから、民有地については市は企業誘致活動やイベントの後援、バックアップをするという立場であることを確認した。公共交通についても、板倉方面からの路線バスを試験的に上越妙高駅を通そうとしたところ、当時、コロナ禍で観光利用が見込めないことから中止したという説明があった。

駅周辺の賑わいの創出による活性化について、地域課題の話し合いの中で釜蓋遺跡の活性化という意見があったことを受け、市担当課の文化行政課から釜蓋遺跡の概要や釜蓋遺跡公園の整備概要などについて説明を受けたほか、文化行政課の案内による現地視察や吹上・釜蓋遺跡応援団などとの意見交換会を行った。

続いて、上越妙高駅西口のフルサット、JM-DAWNなどの現地視察を行ったが、その直後に市からこの後説明する「地域活性化の方向性」の作成依頼があり、8か月程度、協議が中断した。

再開後、釜蓋遺跡の活用を切り口とした駅周辺の活性化に協議を絞ることを決定し、その後、具体的な取組を検討後、取組の内容ごとに市への意見書の提出、地域独自の予算事業の活用、地域協議会による団体のバックアップの三つの方法でまとめ自主的審議を終了した。具体的な取組内容や主な成果・実績については、記載のとおりである。

・【参考】令和6年2月21日資料No.1別紙2により説明

地域活性化の方向性とは、地域の活性化に向けて、地域において特に重視したいことなどを簡潔にまとめたものであり、市からの依頼により全28地域自治区で作成された。

地域が目指す方向性及びその方向性を下支えする構成要素を箇条書き挙げている。地域活性化の方向性は、市の取組の企画の参考として活用されるほか、今後の

自主的審議や諮問・答申での参考とする。

・資料No.1により説明

第4期における全28地域自治区での自主的審議の状況を参考までに配布する。  
現在審議中のテーマと審議が終了したテーマ別にまとめてある。

**【秋山会長】**

ただ今の説明について、質問のある委員の発言を求める。

**【近藤浩委員】**

資料No.1で和田区の自主的審議事項「上越妙高駅周辺の整備、活性化について」が審議終了したものの欄に掲載されているが、これは実は大きなテーマだと思う。それがこれで審議終了というのは、もう取り上げないということか。

**【石黒係長】**

第4期和田区地域協議会の自主的審議としては終了したことを意味する。別の視点から改めて審議することは可能である。

**【近藤浩委員】**

このテーマは市全体にとっても大きいテーマであり、それがこれで審議終了というのはもったいない。

**【石黒係長】**

そのとおりであるが、前期の委員は釜蓋遺跡の活用だけで活性化を図ろうとしたわけではない。いろいろな角度から検討し、取り組みやすさなどの点からテーマを絞ったときに、釜蓋遺跡の活用を切り口とすることに至った。企業誘致などについては、既に土地区画整理事業が終了しており市は後援やバックアップの立場になっているということ、また、地域協議会が民間企業に対して何か要望することは難しいことを踏まえて、その方向での検討はなされなかったということである。

**【秋山会長】**

近藤委員の意見に同感である。おそらく和田区にとってこれが一番、将来に向けて大事な課題かと思う。ぜひこのメンバーでも、またいろいろな切り口で意見交換をしていけたらよい。

**【近藤浩委員】**

大和3丁目の農家組合が中心となって、5、6年前から大和3丁目の農地の活用に向け、国会議員や県議会議員、市の職員を招いて活動してきたが、なかなか前に進んでいない。これを地域協議会で取り上げてほしいというわけではないが、駅周辺ということで丁度よい土地もたくさんあるので、何とかその活用を真剣に考えていけたらよいと思う。

**【秋山会長】**

事務局の説明に関する質問はここで一区切りし、ここからは、地域に対する皆さんのいろいろな思いをもう少し深く伺いたい。

また、先日事務局と会長、副会長で打合せをしたとき、横田副会長から和田地区と大和地区は全然違うという話があった。確かに、農村地帯で子どもが減りつつある地区と宅地造成が進んでまだまだ若い世代が流入している地区と、そのどちらの課題も共有するという役割をこの協議会は担っている。そのような特性も踏まえて、また世代によっても変わってくるかと思うので、皆さんが感じているこの地域の課題などを今回の会議の中心に置いて皆さんから発言願いたい。

**【高橋委員】**

中箱井で現在、工業団地の拡張の計画が立ち上がっているようである。発展すること自体は嬉しいのだが、関係車両と思われる車が時間待ちか何かで道路に駐車し、食事などをした後のゴミが散乱している状況が最近見受けられる。一時期収まった時期もあったがまた再開した。これは運転手の個人の責任としか言いようがなく協議会の場で話してよいものか迷うが、車がたむろしている状態は少し怖い感じも受けているので発言した。

**【秋山会長】**

一般的に、新しい駅ができていろいろな人が地域に流入すると犯罪が増えると言われていたが、そこまでいかななくても、おそらくのどかな地域から少し変わってきている部分があるかと思う。課題として取り上げるかは、次回に向けて会長、副会長と事務局で整理していきたいので、今回はフリートークだと思って今の高橋委員のような話でも、地域全体を俯瞰した話でも、前回の自己紹介の続きでも構わないので積極的に発言願う。

医療関係者の委員 2 人はいかがか。

**【牧田委員】**

医療関係に関しては、和田区が今何をするかといった情報や考えを持ち合わせていないので、必要に応じて情報収集をして相談したい。

また、今ほど説明のあった駅周辺の開発に関して、今回の資料だけでは理解が難しい。事務局の説明をもう一度かみ砕きたいので、そのような資料を改めていただければ、この先、私たち第 5 期でもう一度検討するときの資料としてありがたいので、そのような資料が欲しい。その上で、第 5 期でもう 1 度話し合うべき部分があるか検討をしてみたい。

**【西田委員】**

活性化にはいろいろな切り口があるかと思う。第 4 期の自主的審議では、釜蓋遺跡の活用によって駅周辺を活性化するという方向で検討された。第 5 期はその話し合いだけでなく、他のことも話し合っていくことも必要ではないか。

**【秋山会長】**

前期の皆さんは釜蓋遺跡を活用した活性化に集中して審議されたということである。既に結論が出ていて他に方策がないということでもないなので、いろいろな切り口で駅周辺の活性化を話し合っていくことは第 5 期でもできるかと思う。

**【西田委員】**

和田区に来て 2 年しか経たないことから、実際のところがわからない。ただ、せっかく上越市に新幹線の駅ができたことから、もう少し何とかしたいと思う。

私が今までいた富山市では、市の中心から離れたところに大きいスーパーができ、その周辺がすごい勢いで発展した。住宅や電車の駅、病院が次々とでき、施設なども増えている事例があるので、いろいろな切り口から考えていけたらよい。

**【阿部委員】**

釜蓋遺跡は、新幹線の工事の際に発掘されたものである。当初、市の計画ではもっと広い範囲に及んでいたが、予算がないということで縮小されて今の状況になった。釜蓋遺跡ガイダンスなどができてからずっと吹上・釜蓋遺跡応援団のメンバーとして関わっており、最初はみんなが意欲的に自主的に活動に参加して盛り上がっ

ていたが、コロナ禍でイベントなどができなくなり活動が停滞した。かつての状況を目指して昨年から活動を再開したが、施設などを見るとオープン当時からどれだけ盛り上がったのかというところがあまり見えてこない。新幹線の駅を降りたときに、東屋が1軒あるものの、これが釜蓋遺跡公園だという目印がない。発掘してもすぐ埋めてしまうので何も見えてこない。遺跡公園というからには、もう少しわかるような遺跡公園にしてほしいとずっと前から考えていた。この地域協議会で釜蓋遺跡を取り上げて、活性化に向かって活動してきたということがわかったが、目に見えて活性化したようには見えない。どうしたらよいかを今後考えなければならぬと思った。

#### 【秋山会長】

釜蓋遺跡ガイドンスも、最初に計画を聞いたときには全国から史跡ファンを呼び寄せる拠点になるという規模だったが、回を重ねるごとに小規模になっていったという印象がある。しかし、釜蓋遺跡については、おそらくステージの違ったところでの議論も必要かと思うので、この協議会で話し合う内容の方向性も整理させていただきたい。

#### 【渡邊委員】

町内会長や和田小学校区の防犯協会の会長を務めており、そういった役員になって初めて地域のいろいろな仕組みや会のことを知ったところである。正直なところ、この地域協議会という組織がどのような方向へ向かっているのか、どのような議論をしていけばよいのか今はよくわからない。

#### 【山岸委員】

私もまだ方向性は全然見えていないが、先ほどの第4期の自主的審議の説明であった、デパートやスーパーの誘致の検討についてももう少し詳しく聞きたい。だんだん駅周辺の活気がなくなっているように感じる。その辺りの資料を見せてもらいながら検討していけばよいと思う。

#### 【西片委員】

私も地域協議会という組織がどのようなものか今一つ理解してないが、順々に勉強していきたい。

地域の活性化ということだが、この地域はどうしても車での移動が中心になる地域のため、駅周辺にいろいろな施設を作っても集客が心配である。車で他に行ってしまうのがここの地域性なのかと思う。冬の雪の問題もあり、この地域の活性化と一言で言っても非常に複雑で難しい。

税金を使って箱物を作っても、それによって住民が生活しにくくなっても困る。民間の施設、商業施設であればよいが、あまり住みにくくならないような活性化の方法を望んでいる。

#### 【高橋委員】

前期も地域協議会委員を務めていたので、第4期の自主的審議の経過を見てきた。第4期当初、市からこの地域に対して地域団体の活動支援として610万円ほどの補助金が配分されており、その活用に向け団体から提案された事業の審査をすることが協議会の主旨であった。第4期の途中で市長が代わり、その方向が少し変わってきたと感じている。参考で配られた和田区の地域活性化の方向性についても、最後の1年間に市から依頼があってバタバタと決めたような形である。

自主的審議の中ではいろいろな議論をし、釜蓋遺跡についても堅穴住居を復元してはどうかという案も出たが、市からは遺跡の保存のことを考えると国の許可が下りないという説明があり、最後は行き詰まっていた。最終的に市に提出した意見書もまとめた文章になったというのが、自分の正直な感覚である。これではまだ足りないという気持ちがあり、もう少し関わってみようということで今期も引き続き委員に応募した。

今年、ある新幹線の停車駅に行った際、駅の東側は一面の田んぼ、西側はというと100メートル区間が市街化されて大きな病院や銀行、商業施設があったが、その先は普通の町並みがあり上越妙高駅と同じだと思った。我々が駅周辺を何とかしていきたいと思っても、そんなに簡単にはできないということはわかるが、我々や市、いろいろな方面が一つの方向に向けばもっと進むのではないかと思う。まだ何か押しが足りないというのが実感である。

第4期の終りのほうでは、会議に出席する委員の人数が7割程度にまで減ってしまった。自分の思っていた方向と違うと感じたのか、会議を欠席する委員が増えた



ので、今期はそうならないように進めていただきたい。

#### 【角谷委員】

和田と大和は地域性が異なるため、駅周辺の活性化といっても釜蓋遺跡などをテーマに一つの方向を向くことは難しいと思う。

富山市や上田市の音楽ホールによく行くが、全国からそこを目指して大勢の人がやって来ている。せっかく新幹線の駅ができたのに、上越市の良さが発信しきれていないのではないか。

学校について、一般的に複式学級になる可能性が見えてくると地域の子どもの人数について議論されはじめるが、そうなる前に考えなくてはならない。

釜蓋遺跡については、学校の児童や生徒の見学を促すのであれば、子どもがよるこぶ建物にするなどの検討が必要である。魅力の発信の仕方を再検討する余地がある。

#### 【近藤美絵子委員】

自分自身、外から来た人間であるため、この地域の歴史や風習を学ぶ機会がほしいと常々思っている。2月に五目ご飯をつくって神社に置いてくるという行事を聞いたことがあり、そのような風習を教えてほしい。

農家の高齢化などで管理が行き届かない農地があると聞いたが、市の広報で見るとような貸し農園として貸し出せたらよい。

#### 【近藤浩委員】

上越妙高駅は今も市のゲートウェイという位置づけなのか。ゲートウェイとは玄関であり、玄関は人が通り過ぎればいだけだから決して発展しない。市の覚悟というか、取組の本気度を何かの機会に説明願いたい。

先ほど市の説明で、駅周辺の土地区画整理事業について、終了時には9割の土地について利用または検討がなされたという話があったが、上越妙高駅がオープンしたとき、市が主体となって交通整理が必要だったのではないか。具体的には、駅前に交番があるが上越妙高駅を駅で降りた人が、交番はどこにあるか駅員に聞いたという。そんな馬鹿な話はない。大体、駅を降りたときに最初に目指すのが交番であって、近くにコンビニやホテルはあるが、何かこう全体のバランスがちぐはぐとい

うか、民間に任せすぎて市が口を出そうとしたら、既に大手の開発関係企業が買い占めて何もできなくなっていたところではないか。

市には地域の宝という事業があり、これは非常にいい取組である。大和3丁目には荒町観音堂と水谷家と南方位山・歓喜堂という二つの地域の宝がある。地域活動支援事業では、荒町観音堂には140万円ほどもらい、しっかりとした観光スポットというか、地域の伝統が守られた。地域の宝のニュースを見たという4、5人から荒町観音堂などがどこにあるのか問い合わせがあり案内役を頼まれたことがある。そのような取組をどんどん横に広げて、地域の魅力を改めて見直していけたらよい。

#### 【泉委員】

上越妙高駅の周りだけが発展しても何もならない。北陸新幹線の延伸で福井駅がとて賑わっているという。東尋坊、芦原温泉、永平寺を含めた広大なエリアを対象にしているから人が集まっている。上越妙高前の限られた範囲に何かができるも人は来ないと思う。もっと幅広く考えていくことが大切である。

和田区には和田地区振興協議会という組織があり、いくつかの団体が加入している。その勉強会に参加した際、資料に和田区の地域活性化の方向性にも書いてある、情報発信の拠点を目指したい。それにより地域を発展させていきたいというビジョンがあった。その資料を基に振興協議会で勉強して、市に問題を提起して、ある方向性を出した経緯があるので、必要であれば資料を借りることができる。

3年ほど前、佐久の病院に通ったことがあるが、病院はタクシーで30分かかる。あそこも駅前には何もない。駅前にあるのは駐車場などであとは郊外である。あまり狭い範囲で考えないほうがよいのではないかと思っている。

もう1点、釜蓋遺跡について、発掘が終わらないと何も建てられないということは遺跡の基本である。今私たちが取り組むとすれば、遺跡の発掘を促進する、早く終わらせることである。どこの予算になるのかわからないが、そのような運動をして早く発掘を終わらせて、ある程度姿が見えて、その中に大きな建物があつたとすれば、それを復元し、大勢の人に見に来ていただくということを私も当初思い描いた。それがなかなかそこまでいかない。まだ発掘途中だという説明である。地域協

議会として取り組むなら、発掘を促進していくということが1つの課題になってくる。

地域活性化の方向性の関連で、次世代を担う人材をイベントに活用することは、言葉で書くと簡単だが、現実には誰も出てこない。大失敗したことがある。そのような経験があるので、地道にやっていくのがよいかと思っている。

また、昨日、市の地域政策課から送られてきた資料に、地域協議会委員などを対象としたアンケートの集計結果があり、その中で高齢者がいると発言しにくいという意見があった。若者や女性の参画を望む声が多いようである。自重していきたい。

**【秋山会長】**

確かに若者、女性とあったが、バランスを取るということも大事とあった。経験豊富な方の意見も重要である。

**【阿部委員】**

新幹線の計画ができるときに協議会があったが、西ゲートウェイと東ゲートウェイを作ると聞いた。駅を中心にして、西ゲートウェイは山ろく線のほうに繋がる広い道路、東ゲートウェイは国道18号に繋がる道路を整備するという計画であった。今、東側は整備されたが、西側は山ろく線に繋がるのは昔のままの細い道である。これから整備されるのか。

**【秋山会長】**

道路の拡張についてはかなり要望も出ていて、具体的な調査も進められているが、時間がかかっていると聞いている。県の役割が大きい。

**【横田副会長】**

実施できるかできないかは別として2点ほどある。

1点目は、上越妙高駅周辺というどうしても釜蓋遺跡など最寄りのところだけイメージしがちであるが、例えば高田駅周辺といって高田駅の周りだけを考える人はいない。本町通り全体の区間を思い浮かべると思う。その感覚で考えると上越妙高駅周辺とは和田区そのもの、そこを活性化するという事は和田区そのものを活性化する必要があると考える。先日、上越妙高駅前のガンギブリーイングの前を車で通ったときに、駅から遠いと感じた。気軽に行ける、歩いていける距離という

範囲で考えれば、いろいろなことを考えられると思う。

もう1点、私には中学生の子どもがおり自転車で通学している。冬場は、上越妙高駅まで歩いて電車で通わせようと思っているが、東木島や島田の子どもたちは駅まで歩いて行けるのか、またはバスが通っているのか。多くの保護者が当たり前のように義務教育の中学校にも送り迎えをしている。義務教育なら学校に行かせる義務が親にあると言われればそこまでだが、子どもには義務教育を受ける権利があるのに公共交通が整ってない。誰かの手を借りないと学校に行けないという状況はあっていいことなのかと以前から疑問に感じている。

今年合併した東頸中学校はどうやらスクールバスが出るらしい。三郷小学校が南本町に合併してもスクールバスが出るらしいと聞いた。自分が中学生だった頃はバスの本数もあり、バスで通学できたほか、脇野田駅まで歩いて電車でも通学することができた。当時と状況が変わった中で、親の手を借りずに何とか子どもたちだけで通学できる環境を整えられないかと思う。

先ほど、泉委員が高齢者の発言は歓迎されないと話していたが、ここの場にいるメンバーが現状の全てである。ここにいる委員で地域の話をしていかないといけない中で、結果としてであるが、自分より若い委員がいない。若い人がこのような場に参加しないということも、ある意味この地域の特性なのかも思う。

#### 【秋山会長】

今日は何かにもとめるというのではなく、皆さんが日々考えていることを伺う時間とした。この地域をよくご存じの委員とまだまだ知らないという委員がいるので、まずは地域を知る活動も必要かと思う。

今日いただいた意見を振り返りながら、今後の進め方について会長、副会長と事務局で整理し、次回示したい。

事務局から説明があった和田区の地域活性化の方向性についても、私もいろいろな活動をしているが、活性化という言葉自体に対して最近は少し疑問を持ってしまっていることがある。いろいろと整理していきたい。

以上で、次第2 協議事項（1）自主的審議事項についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【秋山会長】

次第3 事務連絡 に入る。  
事務局より説明を求める。

【小池副所長】

市の地域政策課から資料が送付されたかと思う。同課では今、地域自治の推進に向けた検討を行っており、その検討状況を先週、上越市議会に報告した際の資料である。次回の協議会で事務局から概要を説明する。

- ・今後の地域協議会の日程連絡

令和6年度 第3回地域協議会：7月17日（水）午後6時30分から

第4回地域協議会：8月21日（水）午後6時30分から

会場：ラーバンセンター第4研修室

【秋山会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。